



週報

カトリック 園田教会

A年

2014年
3月2日(日)

No. 1889



3月2日(日) 年間第8主日

ミサ 9:00 ショヴァン二神父

今日の聖歌と祈り

入祭の歌 : 典礼聖歌 48 神の名は

答唱詩編 : 「聖書と典礼」をご覧ください

アレルヤ唱 : 「聖書と典礼」をご覧ください

奉納の歌 : 典礼聖歌 390 キリストのように考え

拝領の歌 : プリント うるわしき (カトリック聖歌288番)

皆で唱える祈り : プリント 司祭の召命を求める祈り

閉祭の歌 : 典礼聖歌 24 栄光は 世界におよび

今日の典礼奉仕者

先唱	武永
聖体奉仕	Sr.辻家
第1朗読者	丸尾(壮)
第2朗読者	上島(婦)
共同祈願・意向担当者	① 昇 ② 岡田 ③ 市瀬 ④ 長岡
奉納と献金	壮年会
典礼当番	畠山、細木
答唱詩編	全員
オルガン奉仕者	山田

今日の行事・他

- ・定例評議会
- ・日曜学校
- ・中高生会
- ・サン・ジュゼッペ聖歌隊の練習(ミサ後聖堂)

お知らせ

- ・ 諸事情により、3月30日(日)予定の新司祭(ベトナム人)の初ミサが中止になりました。従って、新司祭との交流会はありません。ご了承ください。なお、当日のミサは日本語で調整中です。
- ・ 「東日本大震災被災者支援募金」に、何時もご協力いただき有難うございます。大震災から3年が経ち被災者支援も長期化しています。今後も募金を続けていくために、今月から毎月第3日曜日に募金をお願いすることに致しました。みなさまのご協力をお願い致します。
(園田教会 社会活動委員会)

3月5日は 灰の水曜日 です。

・四旬節の初日ー灰の水曜日

四旬節の初日が日曜日ではなく水曜日であるのは、四旬節の日数との関連があります。古代のキリスト者は、受難の苦しみを通して復活の栄光に入ったキリストの過越を祝う復活祭を迎えるために、キリストにならって40日の断食による節制の期間を設けました。

この期間は正確に40日を守るものだけでなく、地域や時代によって異なりました。やがて、主の復活の日である日曜日を除く月曜日から土曜日までの6日間を断食の日とし、それを6週間続け(6日×6週で36日)、これではまだ40日に4日足りないので、復活祭前の7週目の土曜日から4日さかのぼった水曜日から断食の期間を始めることとなり、これが灰の水曜日として定着したのです。灰の水曜日の日付は復活の主日の日付によって決まります。

灰は粗布とともに、断食や回心などと結びつけられて聖書の中で言及されています(ヨシュア7・6、ヨナ3・6、マタイ11・21など)。古代の教会では、罪を犯した人は四旬節が始まるときに教会共同体から引き離され、公の回心のしるしとして粗布をまとい、灰をかぶって四旬節を過ごしました。このような公の回心は10世紀終わりごろまでに廃れてしまいましたが、灰を受けることが残り、灰の水曜日の式となりました。また、罪を犯した人だけでなく、彼らへの連体の意識から他の信者も灰の水曜日の式に参加するようになりました。そして、ベネヴェント教会会議(1091年)の教令で、聖職者も信徒も全員が灰を受けることが定められ、教会全体での実践へと発展しました。前年の受難の主日(枝の主日)に祝福された枝を燃やした灰を受けるという実践は、12世紀以降に始まりました。

灰を祝福した後、司祭は「回心して福音を信じなさい」もしくは「あなたはちりであり、ちりに帰って行くのです」と言いながら参列者の頭か額に灰をかけ、共同祈願を唱えて式を結びます。

(カトリック中央協議会HP 典礼解説から抜粋)



今週の暦

3月3日(月) 集会祭儀 6:30～

3月4日(火) ミサ 6:30～ ジョヴァンニ神父 教区 顧問会 10時

3月5日(水) 灰の水曜日(大斎小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)
ミサ 19:00～ ジョヴァンニ神父

3月6日(木) ミサ 6:30～ ジョヴァンニ神父

3月7日(金) ミサ・十字架の道行 19:00～ ジョヴァンニ神父

3月8日(土) ミサ 6:30～ ジョヴァンニ神父
・入門講座(9:00～10:00)
・教会清掃(婦人会第2週)

3月9日(日) 四旬節第1主日 洗礼志願式
ミサ 9:00 ボナツィ神父

- ・大人の日曜学校
- ・日曜学校 ・中高生会
- ・サン・ジュゼッペ聖歌隊の練習(ミサ後聖堂)
- ・パウロ書院 書籍展示販売

